

ティム・ラヘイの秘密結社 CNP

エドワード・ヘンドリーが、『レフト・ビハインド』シリーズの著者ティム・ラヘイについて述べているので、以下ご紹介する。
(Edward Hendrie, *Bloody Zion*, Kindle ver.)

ティム・ラヘイは、単なる人気のあるシリーズ本の著者ではない。1981年に、国家政策評議会(CNP)を設立した。これは、表向き、保守派のクリスチャンのフォーラムを名乗っていた。ニューヨーク・タイムズ紙は、CNPを「国内で最も強力な数百人の保守主義者から成るほとんど無名のグループ」として紹介した。すべてのクリスチャンが懸念すべき点は、CNPの会合の秘密性である。CNPは年に3回秘密会議を開いているが、それは非公開の場所で非公開に開催されている。ニューヨーク・タイムズ紙は、会議出席者用の規則表を入手した:

「事前であっても事後であっても、メディアには、開催の日時と場所、参加者について知らせてはならない」

ニューヨーク・タイムズ紙のデイビッド・カークパトリックはさらにこのように述べた。

会員リストは「極秘」である。ゲストは、「執行委員会の全会一致の承認があった場合のみ」参加が許される。情報漏洩を防ぐために、互いの中で送信される電子メールの中で、組織名を出して話題にしてはならない。

CNPは、何を隠しているのだろうか。CNPの振る舞い方は、主の働きをするキリ

スト教の組織らしくない。それは、むしろ、悪魔の業を行う悪魔の集会のようである。イエスはこのような振る舞いについてこう言われた。

そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行ないが悪かったからである。悪いことをする者は光を憎み、その行ないが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来ない。しかし、真理を行なう者は、光のほうに来る。その行ないが神にあってなされたことが明らかにされるためである。

(ヨハネ 3・19-21)

CNPの会合には誰が出席しているのだろうか。別の秘密結社(スカル・アンド・ボーンズ)の著名なメンバー、ジョージ・W・ブッシュである。

「ブッシュ氏は1999年秋に、このグループ[CNP]で、自分の選挙活動を支援するように求める演説を行った。しかし、この演説のニュースが漏れ、論争が巻き起こった。民主党議員たちが大統領に録音テープの公表を求めたのだ。ブッシュがこのテープを公表することはなかった。」

CNPは他の秘密結社と連動している。CNPの創設者ティム・ラヘイは、福音派教会と諜報コミュニティを結びつける中心人物であった。自ら諜報部員であり、カルト集団のリーダーでもある文鮮明を通じて活動していた。これは、驚くにあたらない。エリック・ジュエルは、ラヘイの活動について、次のように詳細に述べた。

ティム・ラヘイは、文から支援を受けていた「米自由連合 (AFC)」のリーダーであった。文は「この組織は自分のネットワークの一部である」と主張していた。さらに、「リバイバル連合」と「ヘリテージ財団」とも関係があった。これらはいずれも文によって支援されて

いた。この関係が公になってから、ラヘイは AFC を辞め(ただし、辞任後も名前は消されなかった)、公の場では文との間に距離を置こうとした。ラヘイは宗教的自由連合 (Coalition of Religious Freedom) のリーダーでもあり、脱税で投獄されている文を擁護していた。数百人の福音主義者たちに「当局の許可があれば、刑務所を訪れ、文氏を支援してほしい」と要請した。ファルウェルの『モラル・マジョリティ』の最初の取締役会のメンバーでもあった。この組織は、会員を通じて諜報機関及びレン・文の統一協会とつながっていた。さらに『米伝統的価値連合』を設立した。この組織は、キリスト教の団体と宣伝されていたが、文鮮明の組織の理事会のメンバーや諜報機関のエージェントで満ちていた。

「笛吹きに金を払う者が、曲を決めることができる[訳注：金を出せば口も出す]」。ラヘイは、元韓国情報将校で、文鮮明の側近と言われる朴普熙から、CNP の代表として 50 万ドルを受け取ったと報じられている。ラヘイはこの容疑を否定しているが、朴に対して感謝を伝えているのを目撃した人々がいるし、これを記念する録音テープがあるとの証言もある。ラヘイは、『宗教的自由連合 (CRF)』の創設者兼会長である。エリック・ジュエルによると「CRF の総裁ドン・シルズは、CRF が文の資金源から少なくとも 50 万ドルを受け取ったことを認めている」。

その会員制と極端な秘密主義を見れば、ラヘイの CNP が秘密諜報活動の宗教的フロントであることは明らかである。ダニエル・グラハム中将は、CNP の理事である。レーガン大統領の軍事顧問であったグラハム将軍は、国防情報局局長、CIA の副局長も務めていた。さらに、CNP の会員には、政府の元 CIA 特別補佐官であり、作戦担当副局長であったマックス・フーゲルがいる。

CNP は、外交問題評議会(CFR)のリベラル社会主義的アジェンダに対するキリスト教保守派の代替組織と考えられていた。しかし、バーバラ・アホが言うように「他

の著名な CNP の幹部やメンバーのプロフィールを見ると、CFR との間に驚くほど多くの繋がりがあることがわかる」。

しかし、積極的な研究者が入手した初期の CNP の会員名簿によると、CNP の初期の指導者は、事実、外交問題評議会の代表者でもあった！ CNP は、グローバリストの組織である外交問題評議会に対する保守派の代替組織であった。CNP の最初の理事会には、CFR のメンバーが少なくとも三人、おそらくそれ以上いた。ジョージ・F・ギルダー—CNP 理事（1982 年）、エドワード・テラー博士—CNP 理事（1982 年）、そして、ガイ・ヴァンダー・ジャグト—CNP 理事（1982 年）。

CNP 理事ジョージ・ギルダーは、ロックフェラーが資金提供したマンハッタン研究所の計画部長で、デイビッド・ロックフェラーの友人であり、CFR のメンバーであった。（文鮮明が所有する）ワシントン・タイムズ編集長のアーナウル・ドボルチグレイブも CFR のメンバーである。元上院議員ジェシー・ヘルムズ(故人)は、CNP 理事会のメンバーであった。ヘルムズは、CFR のメンバーでもあった。

CNP と CFR は共謀関係にある。

ふたりの者は、仲がよくないのに、いっしょに歩くだらうか。(アモス 3・3)

CFR の特質を調べることによって、CNP についても多くのことが判明する。CFR は悪魔的で、明らかにシオニストの秘密結社(イルミナティ)のフロントグループである。CFR は、いくつかの円卓会議の結社の一つである。CFR は、会員の教育のために利用されており、会員は米国政府に潜入して支配する。チェスター・ウォード

海軍大將は、16年間 CFR のメンバーであった。CFR の目的が「米国を武装解除し、全能の世界政府に引き渡すことにある」と気づき、退会した。

前例がないほど自由に CFR の秘密記録を閲覧することを許されたジョージタウン大学歴史学教授キャロル・クイグリーは、1966年の著書『悲劇と希望』の中で「米国の共和党と民主党は舞台裏で完全に CFR によってコントロールされている」と述べた。

ティム・ラヘイは、シオニズムという悪魔的な詐欺の共犯者である。1976年に、保守派の月刊誌『ウェスタン・フロント』の編集者ウォルター・ホワイト・ジュニアは、ハロルド・ウォーレス・ローゼンタールに対して驚愕のインタビューを行った。ローゼンタールはユダヤ人のインサイダーで、ニューヨーク上院議員ジェイコブ・ジャビッツの個人的アシスタントであった。「ユダヤ人はあまりにも強力であり、彼らを攻撃することは不可能だ」と考えるローゼンタールは、ギャンブルの資金を手に入れる代わりに、シオニストの世界征服の陰謀に関する自分の考えを表明した。ヘンリー・メイコウは、ローゼンタールの発言を正確に要約し、次のように結論づけた。すなわち、「ユダヤ人は、地上の帝国を築いた。その手段の一つは、キリストの兄弟愛に基づく霊的な王国というビジョンを拒絶することであった。ユダヤ人の銀行家たちは、自らの利益のために、エルサレムから世界を統治する計画を立てている」と。

ローゼンタールによると、ユダヤ人は、「クリスチャン」シオニストをコントロールすることによって、共産主義世界政府の樹立という自らの邪悪な計画が暴露されることを防いできた。ここにおいて、ラヘイやハギー、その他のシオニストたちが重要な役割を演じている。ローゼンタール曰く：

われわれは、宗教的影響を通じて、無知な白人キリスト教徒を自分自身との戦争に巻き込むことができた。この戦争により、敵味方の双方

が常に貧困化したが、その一方で、われわれは財政と政治の面で、収穫を得てきた。われわれの正体をさらす事実が明らかになったときはいつでもわれわれは、ただひたすらに己の力を結集する。クリスチャンたちを無知な状態に留めるためである。クリスチャンたちは、たとえばそれが家族のメンバーであっても[われわれを攻める]十字軍の兵士を攻撃する。

CNP や CFR などと共働するラヘイは、キリスト教のミニストリではなく、むしろ精緻な計画に基づく諜報活動に従事しているように思われる。この諜報活動を木と見なし、その果実を調べるならば、それが、世界政府の樹立という反逆的なゴールを目指していることが明らかになる。キャロル・バレンタインによれば、「クリスチャン」シオニストたちがイスラエルに与えている援助と慰安は、米国に対する謀反であるという。バレンタインは「『クリスチャン』シオニストたちは、自らのイスラエルに対する忠誠によって、目が曇らされており、自分たちが敵国を幫助しているという事実が見えなくなっている」と述べる。

キャロル・バレンタインは、シオニズムを客観的に観察した結果、唯一の可能な結論に達した。それは「ユダヤ人シオニストと彼らの『クリスチャン』シオニストの協力者たちは、米国内で第五列を形成している」ということである。第五列とは、「敵に対して密かな同情を抱き、自分の国を裏切り、破壊活動をする人々のグループ」を意味する。・・・クリストファー・ジョン・ブジェルクネスは、米国に対する「クリスチャン」シオニズムの危険性について次のようにまとめた。

イスラエルは、アメリカにおいて「クリスチャン」シオニストという大きな第五列を作り上げた。彼らが崇拝しているのは、キリストではなくユダヤ人である。ユダヤ人が、ユダヤ教の神殿を建て、ユダヤ人「メシア」に油注ぎをするのを助けるつもりだ。この「メシア」は

「反キリスト」であり、その存在そのものによって、イエスをあざ笑うだろう。これらの、興奮して口角泡を飛ばす大量殺戮マニアたちは、しきりに同胞を核攻撃したがつている。核爆弾が落ち始めたら人々がどうになってしまうのか、などまったく意に介さない。ユダヤ人が作った「携拳」という狂った教えを信じ、数十億人を殺すことを望んでいる。なぜならば、自分たちが天に携拳されるからである。

スティーブ・ヴァン・ナタンは、イスラエルへの忠誠を自国への忠誠より優先させる「クリスチャン」シオニストの例である。ヴァン・ナタンは、従軍経験のある米国市民であるが、「神はまもなくアメリカを滅ぼし」最終的にイスラエルを高くするだろうとの考えに「喜びを覚えた」と述べている。ヴァン・ナタンが抱く「クリスチャン」シオニストの希望と信念は、神が教会を去り、イスラエルを選択することにある。ヴァン・ナタンはこのように述べた。

メシア・キリストの王国統治が差し迫っている。この統治の直前に、神はイスラエルを高くされるだろう。さらに、イスラエルの傲慢なユダヤ人と反逆者を滅ぼした後に残されたユダヤ人にも栄光をお与えになるだろう(ゼパニア 3)。神はイスラエルを賞賛される。かくして、われわれは今、人類史において、次の偉大な時代の門口に立っている。アメリカは神に対する反逆を主導している。この国が関心を寄せているのは、もっぱら豊かな生活と快樂だけである。それゆえ、神はまもなくアメリカを滅ぼされる。私の心には喜びがある。というのも、われわれは、不敬で、感傷的なアガペーの世界の教会を去り、偉大なイエス・キリストの御国に入る必要があるから。主イエスよ、来てください。マラナタ。

以上の文章で、「ティム・ラヘイの秘密結社 CNP は、シオニスト、悪魔教徒、イルミナティ、CFR、統一協会と共働し、クリスチャンを欺いてイスラエルを中心とする世界政府樹立のために働く反キリストの組織である」ということが、明らかになった。